

資料展示室

奥殿藩・奥殿陣屋などの歴史をわかりやすく展示し、特別展も開催する。



花火資料室

花火の発祥は、一説に三河と言われている。徳川家康の鉄砲隊が故郷に戻り、火薬の平和利用に腐心したためである。この地方には、稲富流を元祖として、一光流、武田流、荻野流、熊野流など数々の流派が伝承されている。



「庵(いおり)」(旧茶屋) イベントスペース

金鳳亭でどうぞ

季節ごとに お楽しみください **旬の味・手作りの味**



春 竹の子ごはん (4月中旬より)



夏 笹寿司 (7月初旬より)



秋 松茸ごはん (9月中旬より)



冬 五目釜飯 (12月初旬より)

上記の他に季節限定メニューもあります



春 竹の子弁当



夏 鮎釜めし



秋 麦とろご飯



冬 かも鍋

受付 TEL (0564) 45-7230 FAX (0564) 45-7458
 詳細については、御相談させていただきます。※10名様以上は、予約が必要です。
 ※上記メニューは予告なく変更する場合があります。

北欧風庭園

(奥殿スウェーデンガーデン)

岡崎市とウッデバラ市が姉妹都市提携し50年が経ちました。そこでスウェーデン・コロニーガーデン風お庭を作りました。



村積山(花ぞの山)

古くから、花ぞの山とも、三河富士とも呼ばれる美しい山。陣屋から徒歩約三十分で山頂から美しい風景をのぞむことができる。

蓬菜の庭

書院の本庭は古園にある池庭をモデルに、江戸初期の作風を生かした蓬菜の庭として復元された。また、築山全体を当地方産の杉苔でおおったところ京都にも例を見ないと云われる程の美しさを醸し出している。



座して、静。
 味わって、想。
 四季折々、色彩万化、
 いにしへの夢景色、
 岡崎に
 奥殿陣屋あり。

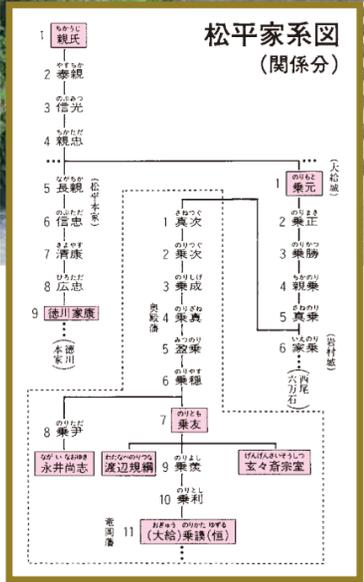


抹茶

奥殿陣屋は持統上皇が命名されたと伝えられる花ぞの山(村積山)のふもと、郡界川と霞川に潤され、千三百余年の歴史を持つ花園の里にある。奥殿松平家の初代は真次で二代将軍秀忠の家来として、大阪の陣に活躍し、寛永四年大番頭(おおはんがしら)に抜擢された。その後上野国に領地を与えられたが、希望により三河の地に替えられ二代乗次の時大給藩となった。第四代乗真の時、奥殿に陣屋を移して奥殿藩が誕生した。陣屋は、表御殿、書院、藩主住居、地方役所、学問所、道場、代官士分等の住居など三十三棟が並んでいた。これらの建物は慶応三年四月、田野口城(のち竜岡城となる)の完成で藩の業務が信州佐久郡田野口村に移ってから、少しずつ移築されたり、とりこわされていった。昭和六十年、竜溪院庫裏となっていた書院を現在地に移し復元した。

奥殿陣屋

岡崎市村積山自然公園「花園の里」



金鳳亭

古園をもとに江戸初期の風格を生かし復元された、お食事処「金鳳亭」。四季折々の景色や蓬菜の庭を一望しながらのお食事は格別である。ゆったりとした静かな一刻を四季の味でお楽しみいただきたい。

玄々斎室誕生碑

茶道裏千家第十世玄々斎室は、文化七年(二八〇年)七代藩主兼友の五男として生まれた。明治維新の西欧化の波が日本古来の文化におそいかつて茶道も衰退の危機にあつたとき、全国茶道界の代表として復興に尽力し近代茶道の祖とされる。

歴代藩主の廟所

徳川家康の祖松平家の親藩として初代真次から代々の藩主をまつた大きな墓塔が立ち並び、特に七代乗友の五男は裏千家十一世玄々斎室であり、八代乗尹の子、永井尚志は日本海軍の創設、大政奉還などにたずさわった。最後の藩主兼親藩局長総裁を務めるなど、幕末から明治にかけて活躍している。



花ぞの苑

「細川の岩間の苔も緑にて花その山に春風ぞ吹く」の古歌にあるように、百花咲き乱れる園の再現を進めている。特に梅園、ラベンダー、季節の花が咲き揃い市民の目を楽しませている。



